

小惑星と隕石

2013年2月16日午前4時24分頃(日本時間)、小惑星2012DA14が地表からおよそ2万7700キロメートルのところを通過していきました。その前日、2月15日にはロシアとカザフスタンの国境付近、ウラル地方に隕石が落下しました。さて、小惑星2012DA14とロシアに落下した隕石とは関係があるのでは？などと言われたりしましたが、NASAの発表によると、この2つは全く関連性はないとのことでした。ここでは、2月中旬に続けて話題になったこの小惑星と隕石についてご紹介します。

1. 小惑星2012DA14について

小惑星は太陽系内に広く分布していますが、とくに火星と木星のあいだに多く存在しています(小惑星帯と呼ばれます)。小惑星とは直径数百キロメートル以下の天体で、現在およそ60万以上も見つかっています。2012DA14の大きさは直径45メートルで、2013年2月16日4時24分ごろに地球からおよそ2万7700キロメートルのところまで接近しました。これは、気象衛星などの静止衛星が地球を周っている軌道(3万6000キロメートル)よりも近く、秒速7.8kmというスピードで地球のそばをかすめていきました。2012DA14は昨年2月に発見され、366日周期の地球に近い軌道を持っていました。1年ごとに地球に接近しますが、今回は特に距離が近く、接近通過後は地球の重力の影響により周期が317日に縮まるといわれています。

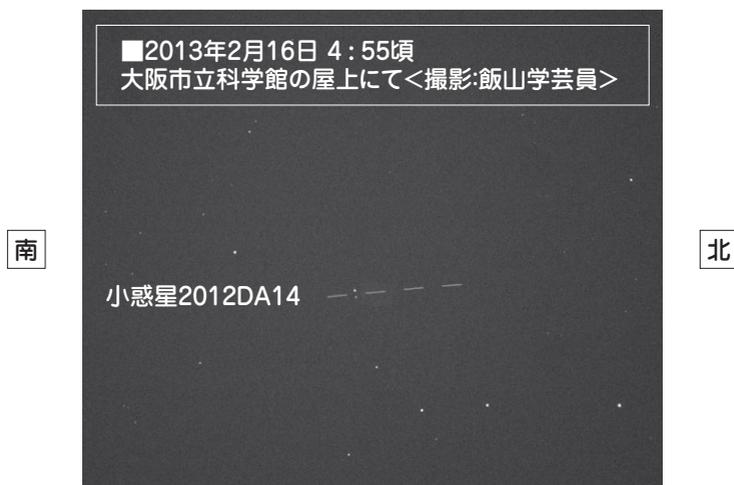


写真1 小惑星2012DA14が南から北へ通過していくようす。
(5秒間隔、5秒露出の写真4枚を合成。)

